

がんばろう山梨!!

河西敏郎

Kasai

県政報告

No.11

幸せ色の山梨県・中央市に…

市民の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃より私の政治活動に深いご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

県議2期、4年目。平成23年度は総務委員長、そして自民党・県民クラブの一員として県民福祉や県政発展のために活動してまいりました。また平成24年度から25年度にかけては山梨県監査委員として県財政の健全化チェック、またムダな事業を省く効率化の推進、さらなる県民福祉の向上など、県民の目線での監査を実施してまいりました。26年度は教育厚生委員長として教育福祉の諸課題について審議しています。

富士山が世界文化遺産に登録されたことや、リニア中央新幹線計画で建設許可がおり、近く着工されることで、日本だけではなく世界各国から観光客や視察団などの来県が予想されています。リニア計画の東京一名古屋間の開通は12年後。子供や孫たちから「お父さん、おじいちゃんたちは素晴らしいものを残してくれた」と言われるように、環境や沿線の方々に配慮して、リニア関連をはじめ様々な地域の活性化構想を皆様のお知恵をお借りしながら作り上げていきたいと思っております。

今後もより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



「議員による森林づくり活動」で植栽活動

笛吹市御坂町地内でヒノキの苗木約300本を森林環境部の職員らとともに植樹しました。



富士山清掃活動

県議会環境部会のメンバーと、世界文化遺産に登録された富士山へ出掛け、清掃活動を行いました。



中部横断自動車道身延山1C建設予定地を視察

チャレンジ
挑戦

教育・福祉の向上にリーダーシップ

教育厚生委員長として、施設整備や学力向上など子供たちのより良い教育環境づくりのほか、疾病の重症化防止など県民の健康維持・福祉向上に向けた諸課題を審議しています。

教育厚生委員会



総務委員会



土木森林環境委員会



予算委員会



平成26年度 6月県議会 一般質問(要旨)

リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みについて^{ほか}

一般質問で登壇(県議会議事堂)

問 体験乗車の意義と必要性をどう考えているか。

県答弁 県民には優先的に体験乗車をしていただくべきと考えている。沿線住民の理解を得るためにも大変有効で、引き続き、JR東海に、より多くの方々がりニアを体験できる機会を設けるよう要望していく。

問 リニア新駅周辺の賑わい創出の考えを示せ。

県答弁 ビジターセンターや道の駅などの機能を持たせ、バスやマイカーの観光客の利用も見込むとともに、県民が集えるイベント広場を整備、アイメッセ山梨とも連携して多くの人で賑わうよう検討している。

問 リニア新駅周辺に近接するエリアの整備案は？

県答弁 甲府市や中央市では、リニア開業を見据え、地域の活性化策などを検討するための組織を既に設置し、効果的な施策を検討している。こうした取り組みに対し、県では必要な支援を行っていききたい。

問 リニアの環境影響評価にどう対応したか。

県答弁 環境影響評価書では、騒音や景観、水資源への影響の把握など、意見が十分に反映されていない点もあり、JR東海に対し、更なる改善の要請を行った。環境保全措置が十分に確保されるよう取り組む。

問 医師不足の地域を解消する策を示せ。

県答弁 今後の医師修学資金制度で、指定する地域の病院への勤務や特定の診療科を目指す研修医への貸し付けを検討していくなど、医師の地域・診療科偏在を解消できるよう取り組んでいる。

問 山梨近代人物館の整備について伺う。

県答弁 人物は、明治時代から戦前に活躍した本県ゆかりの人物で政治経済、農林業、芸術、などから70人を選定。年2回、テーマを替えて展示内容を更新、講座を開催するなど、何度も訪れていただけるよう工夫する。

問 振り込め詐欺などの被害防止の取り組みを示せ。

県答弁 官民一体となった阻止活動を推進し、昨年は63件、約2億3千万円、本年も6月までに34件、約1億3千万円の被害を未然に防いだ。今後も検挙と抑止を両輪とした万全の対策を推進し、詐欺の撲滅を図る。

問 ドメスティックバイオレンス(DV)とストーカー事案の取り組みは？

県答弁 本年は6月現在で、傷害罪や脅迫罪等の刑法犯罪及びストーカー規制法違反等で115件を検挙したほか、被害者の要請で77件の警告を実施。引き続き、被害者の安全を最優先に万全を期したい。

監査委員として東奔西走

健全化に向け県財政をチェック

平成25年度

監査委員2年目となる平成25年度も、本庁各課や出先機関に対する定例監査や一般会計等の決算審査の他、例月現金出納検査などを実施してきました。年度後半は主に県の試験研究機関や県立学校、警察署など、県の出先機関を対象に定例監査を実施しました。概要は以下の通りです。

PM2.5など公害の監視体制を確認

福祉保健部の出先機関である衛生環境研究所の監査では、衛生公害研究所と衛生監視指導センターとの組織統合による成果と課題のほか、放射性物質や微小



衛生環境研究所

粒子状物質(PM2.5)の監視体制や検出結果などについて確認しました。また、各種検査室などの現場を視察しました。

障害者への就労支援に意見

産業労働部の出先機関である就業支援センターの監査では、休職者や障害者を対象にした職業訓練の実施状況をはじめ、受講者の就職状況や就業状況の内容などについて確認。さらに、厳しい雇用情勢が続く中、障害者に対する職業訓練については、今後も引き続き、障害者に対する就労支援に努めるよう意見を述べました。

不適切な通勤手当認定を指摘

県立学校関係では、韮崎工業高の監査において、生



県新消防学校建設予定地を視察



ろう学校

かえで支援学校



韮崎工業高校

徒の資格取得や進路等への対応をはじめ、学校評価制度を通じて明らかになった課題やその改善方策等について確認しました。また、今年度の定例監査を通じて、通勤手当の認定時等における通勤実態の確認等が適切に行われていないことが判明したことから、今後、再発防止に向けた取り組みをしっかりと行うよう指摘しました。

一方、かえで支援学校の監査においては、児童生徒の自立を目指した指導の具体的な取り組みや今後の児

童生徒数の見直しを確認。高等部を卒業する生徒の進路指導については、厳しい雇用情勢のもと、新規就労先の開拓など課題も少なくないが、学校生活の中で培われた力が発揮でき、生徒の思いを最大限に実現することができるよう関係機関との連携を図ってほしいと意見を述べました。

北杜警察署を視察

公安委員会の関係では、北杜警察署の監査において、管内における交通事故や刑法犯などの発生状況を確認するとともに、引き続き市町村や関係団体などとの連携を図りながら、交通事故や犯罪の撲滅に向けた取り組みを行うよう指摘しました。